

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	産業祭実行委員会負担金					
担 当 課 係 名	農 林 課		政策調整 係		作成者	草 薨 博 美
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち				総合計画の ページ
	基本計画	グリーンツーリズムやエコツーリズムの推進				
	主要施策	地産地消の推進				61
予 算 費 目	一般 会計	6 款 農林水産業費	1 項 農業費	3 目 農業振興費		
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続	
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等						
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	市民に農林水産物の理解と商工業関係者の活動を紹介する
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	あらゆる産業に関係する市民が一同に会し、産業の振興と商工業の躍進に寄与することを目的とする。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	農林産物や加工品の展示、販売、商店や関係機関の出店、木の実の工作等のイベント、企業展

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	農林産物出品点数	目標	点	515	485	520	
			実績	点	515	485	565	
			達成度	%	100.0%	100.0%	108.7%	
	成果指標	出店数	目標	店	30	30	30	
			実績	店	30	30	30	
			達成度	%	100.0%	100.0%	100.0%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				1,500	1,500	1,500	
	人 件 費 (B)		—		2,356	2,421	2,378	
	財源内訳	職 員 数		—		0.30	0.30	0.30
		職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925
		(A) + (B) 投下コスト				3,856	3,921	3,878
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				3,856	3,921	3,878
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		7,487	8,085	6,864
市民1人当たりのコスト(円)		—		121	125	125		

【事務事業の今までの成果】

開催場所を変更したことにより農林産物出品が増え好評であった。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	大仙市は合併前の市町村単位で、美郷町は旧仙南村で開催している。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	市町村合併してから、初めて開催地(角館東公民館)を変更したが、天候、駐車場等の理由により再度開催場所の検討の声が多かった。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続(実施)	農家にとって農林産物の収穫は大変喜ばしいものがあり、この農林産物を出品し品評する場になっている。
	B 1 見直しの上で継続(拡大)	
	B 2 見直しの上で継続(手段改善等)	
	B 3 見直しの上で継続(縮小)	
	C 1 大幅な見直しの上で継続(拡大)	
	C 2 大幅な見直しの上で継続(手段改善等)	
	C 3 大幅な見直しの上で継続(縮小)	
	D 休止・廃止(統合を含む)を検討する事業	
	E 終了(完成及び目的を達成し終了した事業)	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容(改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。)

農産物等の出品数と誘客を伸ばすため、開催場所の選定、イベントの充実を図りたい。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	市民の農林水産物に対する理解を深め、商工業活動の紹介を行う場として重要な行事であり、実行委員会の他の構成員との適正な役割分担のもとで推進すべきものと考えます。

一次評価診断図

